

令和4年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 櫻井以文
	所在地	むつ市大畑町観音堂25-1
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関すること。 2、施設の利用料金の徴収に関すること。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7、施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8、施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、經常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額①	上半期実績額②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	93,253	46,330	▲46,923
うち利用料金額	7,220	3,314	▲3,906
うち指定管理料	86,033	43,016	▲43,017
支出合計(B)	93,253	39,482	▲53,771
うち人件費	59,473	28,047	▲31,426
収支差(A-B)	0	6,848	6,848
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>収入合計のうち、利用料金額は年間計画額7,220千円に対して、上半期実績額は3,314千円だった。計画に対する達成率は45.9%となっている。今年度の上半期利用料金額(3,314千円)は、前年度同期(2,708千円)と比較すると、606千円増加となっている。増加の主な要因は、スポーツ団体等の宿泊利用である。</p> <p>支出</p> <p>支出の執行額は、全体の年間計画額93,253千円に対して、上半期実績額は39,482千円だった。計画に対する執行率は42.3%となっている。今年度は経年による施設設備等の修繕があったが、定期的な日常点検を実施し、計画どおり実施したことで軽微な支出が減ったことから、今年度上半期実績額(39,482千円)は、前年度上半期実績額(43,585千円)に比べ4,103千円少なくなった。</p>		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
	宿 泊	1,700	601	▲1,099
	食 事	12,000	5,803	▲6,197
	貸 館	180	50	▲130
	リネン	2,000	963	▲1,037
	教 材	2,000	1,246	▲754

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有) 無)

主催事業参加者及び受入各団体に対し利用者アンケートを実施している。
各事業の利用者満足度に加え、新型コロナウイルス感染症対策に関わる要望に沿うよう実施した結果、十分に満足できるとの回答を得ている。新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、都道府県等の往來の制限も緩和されたことから、上半期においては利用者数も回復しつつある。今後も、利用者満足度を意識し、利用者数の増加に努める。

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
伝統体験「そば打ち～春～」事業中止	0	0	9
生涯学習応援「俳句会 春」事業中止	0	0	4
家族でキャンピング	28	54	48
大人の冒険ハイキング			
生涯学習応援「俳句会～秋～」			
親子で釣り体験			
伝統体験「そば打ち～新そば～」			
食のイベント「Xmas」			
伝統体験「としな作り」			
黒森山冬登山			
伝統体験「べこもち作り」			

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A (優 良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B (適 正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B

②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目についての改善策を記載すること。

<p>今年度も本振興会で策定した「新型コロナウイルス感染対応マニュアル」に基づき、利用者及び施設の安全を確保するとともに、利用促進を図り利用料金の獲得とともにサービスの向上に努めた。</p> <p>上半期の利用状況は、利用団体数 160 団体（前年度 116 団体）、利用人数 2,676 人（前年度 1,581 人）、利用延べ人数 3,938 人（前年度 2,102 人）となり、前年同時期と比較し、利用人数は 1,095 人増加し、利用延べ人数は 1,836 人増加した。団体利用が計画どおり実施されたことで利用人数の増加に繋がった。下半期も、冬季の利用促進を図るため、積極的な営業及び広報活動を展開して、利用増加に向けて努める。</p> <p>評価項目「(5) ②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。」をA評価とした理由は、今年度はスズメバチの発生が多く、施設内に多くのハチの巣が作られていたため、事前に活動エリアの点検を行い、大畑庁舎から防護服を借用のうえ、職員が都度ハチの巣駆除を実施した。また、日常点検を実施し、施設内の様々な不具合に対しても迅速な対応を行って、利用者に安全・安心を提供することができたこともA評価とした要因となっている。</p>

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

<p>令和4年度前期についても、新型コロナウイルス感染症への対応が必要となったが、ワクチンや検査の充実により、主催事業及び自主事業の実施ができており、それに伴い、利用者及び利用料金がコロナ禍前に戻りつつある。</p> <p>しかし、前と全く同じになることが考えられないことから、今後、生活スタイルの変化に対応した事業の展開や施設の管理が求められる。また、日常に潜むマナーに気を緩ませることなく、きちんとした管理ができているからこそ、スズメバチの発生にも対応できたといえる。特に、ハチ</p>

の被害については、命にも関わる事項となることから、見逃さず対応できたことは充分 A 評価に値する。

今後は新型コロナの拡大が予想される下半期についても、施設を閉めることなく事業実施に向けて備えを万全にしてほしい。最後に、電気料や燃料費の高騰が見込まれることから、可能な限り節約をお願いしたい。